
踏切の噂

N31

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
踏切の噂

【コード】
N2617T

【作者名】
N31

【あらすじ】
近所の踏切には不思議な噂がありました。

高校三年の夏でした。私は近所にある踏切の不思議な噂を聞きま
した。

深夜の二時ちょうど、踏切の中央でドンドンと三度強く足を
踏み鳴らし、目を閉じて手を広げて、くるりと回ると異世界に行け
るという噂です。

私はそこに行ったことはなかったのですが、遠目に見たことは何
度かありました。周りは畑に囲まれて見通しがいいけれど、遮断機
はないところでした。近くに人の住む家はなくて渡った先は少し歩
けば山という感じで、田舎に行けばいくらでもあるような踏切です。
その時は、なにそれって笑ってすぐに忘れてしまいました。家
に帰ってお風呂に入っていてふと思いついたんです。

その頃は受験勉強で夜遅くまで起きていたし、親に気づかれずに
外に出られるだろうと思って、試してみたくになりました。夜の一時
過ぎに外へ出ました。家族が起きた様子はありませんでした。

自転車は裏の小屋の中で、出そうとするとかなりうるさくなりそ
うだったので、あきらめて歩いて行くことにしました。家の近くは
電灯がそこそこたくさんあって怖いことはなかったですが、踏切の
近く、畑の多くなる辺りに来ると電灯もまばらでだんだん不安にな
りました。その時は、雰囲気出てきたじゃん、くらいに考えて止め
ようとは思いませんでした。

私は幽霊や怪談を信じない方なので、いま考えるとどうしてそん
な事をしようと考えたのか。

とにかく、私はその踏切までは何事もなく着きました。二時十分
くらい前でした。踏切のすぐ脇に電灯があつて思ったより明るくて、
ちょっと安心していました。

終電はとっくに終わっていて、本当にそこはひっそりとしていま
した。たまに向こうに見える山からざわざわ聞こえてくる程度でし

た。踏切よりも真っ暗な山の方が怖いくらいでした。

腕時計で二時一分前を確認して、私は、噂を確かめることにしました。

踏切の中央に歩いて行って、足を三度踏み鳴らす。目をつむる。両腕を肩の高さまで上げて、ゆっくりと一回転。

期待はしていませんでしたが、かなりドキドキしながら、目を開けました。

それからの光景は今でも夢に見ます。

目を開けた時、視界は真っ白でした。光だとすぐに分かりました。スポットライトかたくさん車のヘッドライトか、そういった物に照らされているのだと思いました。

そして、危ない！ とすぐ近くで男の人の叫ぶ声が上がって、空気が地面を震わせる轟音が聞こえて、振り向くと目の前に電車がありました。

私は左手をすごい力で引っ張られて、横に飛ぶようにして転がりました。

すぐに顔を上げこそしましたが、目が慣れるまでそこに誰がいるのか、自分がどういう状況なのかまったく分かりませんでした。しばらくして、自分の脇に立つ人が制服を着たお巡りさんで、自分は踏切の脇にいたことが分かりました。アスファルトの道の冷たさ、畑の土の匂い、山の微かなざわめき、そこは間違いなくあの踏切の脇でした。

お巡りさんはすごく険しい顔をして息を切らしていて、じっと私を見下ろしていました。

私は呆然としていて、しばらくそのまま動けませんでした。

お巡りさんはそれからゆっくりとしゃがんで、大丈夫かとか怪我はなかったかとか、聞いてきました。しかし、私はパニックになっ
ていて何も答えられませんでした。

しばらくしてから、私はお巡りさんに時間を聞いたのを覚えて
います。

お巡りさんは変な顔をしながらですが、七時ちょっと過ぎたくらいだよ、と答えてくれました。

周りは明るかったのは、すでに昇っている太陽のせいでした。夜は明けていました。

すぐに自分の時計を確認しました。私の腕時計は二時十五分くらい過ぎて、普通に動いていました。

その後、いろいろ話を聞かれ病院で検査などありましたが異常は見当たらず、とりあえず学校に復帰することができました。

あの時、私を助けてくれたお巡りさんは、朝に私がいないうことを家族の通報で聞いて、見回っていたのだそうです。たまたま踏切に立っていた私を見つけてくださいましたそうです。

学校に行くようになってから私は友達にいろいろ聞いて回りました。

私は受験でノイローゼになって電車に飛び込もうしたと思われていたらしいです。すぐにそれは誤解だったと分かってもらえましたが、私が聞いた踏切の噂は、誰にも分かってもらえませんでした。誰も聞いたことがないと首を振るだけでした。

そうして気がついたことなのですが、私も、その噂を誰から聞いたのかまったく思い出せなくなっていたのです。

でも、その踏切はこの近所にあつて、そこで私に何かが起こったということは確かなのだと、今でも信じています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2617t/>

踏切の噂

2011年5月16日20時08分発行